

# 「あなたの歴史を知りたい人がいます」

読売センター代田橋梅丘所長&太っ腹新聞主筆

柴田 秀昭

皆さんこんにちは。やっと秋らしくなってきたと思ったらもう 11 月。今年も残すところあと 2 か月です。早いもんです、まったく。そこで一句「今年こそ早めに書くぞ年賀状」。なんのこっちゃ？

ところで裏面の「読みたくなる自分史」の紹介チラシ、ご覧いただけました？このたび読売新聞では、ご愛読者の皆様に対してご自分の歴史を本にしませんかという提案をさせていただくことになりました。「なに？自分の歴史を本にする？そんなたいそうな！」そう思われる方も多いのかと思います。でも本当にそうなのでしょうか？そりゃあエジソンや野口英世みたいに学校の図書館に偉人伝として本が置かれることはないでしょう、多分(失礼)。でもご自分の人生をすべて知っているのは実はあなただけ。最愛の奥様、旦那様も結婚前のことは知らないんじゃないじゃありませんか？ましてやお子さん、お孫さんは・・・ってことはあなたが書かなきゃあなたの人生を正確に語る人はいないってことです。

私事で恐縮ですが、母が亡くなってしばらくしてから知ったことも。生まれながらの新聞屋かあちゃんと思っていたウチのおふくろ。実は女優の卵だった時代があったとか！息子から言わせれば「げげ～何考えてんの？」ってかんじ。なんでも中学卒業時、親から経済的理由により高校進学を断念させられ、家を飛び出し旅一座に見習いとして加入したとか。へへえ～。ちなみにこの話は亡くなってから父親に聞いたわけですから事実かどうかも確認しようがないわけですが、しかしねえ、旅一座の一員ってあんたは梅沢富美男かっ？どうせなら吉本興業のほうが良かったんじゃないの？でも知りようがなかったんでしょね、吉本の存在すら。福島伊達郡の上小国村に住む女子中学生には・・・

「人に歴史あり」。すべての人の歴史が社会の歴史を作っています。豊富な資産をお持ちの皆様だからこそこの機会に作ってみてはいかがでしょう「自分史」。

とはいえ、何分お値段がですねえ～ですよ～。ですからくれぐれも即決ではなく詳しいことを聞かれて納得してからお申込みいただいたほうがよろしいかと。「詳しく教えて」とご一報いただければ読売新聞社主筆に代わり太っ腹新聞主筆のワタシがご自宅まで参上し説明申し上げます。あちらの主筆のようなエラそうな物言いはいたしません。だってホントに偉くないからワタシの場合。(あちゃ、また書いちゃったぜ、本社の悪口)。ご検討いただければ幸いです。